

ガイダンス資料（量子化学 担当類家）

1 本日の配布資料

- ガイダンスに関するもの
 1. これ ←1 枚
 2. 別紙 ←1 枚
- 講義に関するもの
 1. 原子の構造／水素原子の波動関数 ←1 枚
 2. 宿題プリント ← たくさん

2 履修に関して

1. 量子化学は、量子力学の知識を基礎として、原子や分子の安定性や、化学結合の本質を理解することを主眼とします。
2. 「量子化学（もちろん、その基礎となる量子力学）は簡単な学問ではない」ということを覚悟して下さい。
3. 最低限の量子力学の知識を前提にします。 「量子力学 I」を履修し単位取得していない方は、「量子力学 I」を受講してからの履修を強く勧めます。

3 講義に関して

1. 講義では、証明の細部について説明することはしません。証明の詳細は指定教科書のどこを参照すればよいか指示を与えるにとどめます。
2. 黒板（ホワイトボード）に書かれたことを写すだけで、完璧な講義ノートが完成するような板書をする予定はありません。口頭での説明などをメモするなど、各自で工夫してください（これは当たり前のことです）。なお、板書する内容は基本的に全て指定教科書に書かれていますので、板書せずに説明を聞くことだけに専心しても構いません。
3. 講義中は携帯電話やスマートフォンなどの電源を切って下さい（もしくは、機内モード）。
4. 7 回目の講義は、20 分早く開始します。

4 教科書

拙著「**詳解 量子化学の基礎**」（定価 4,200 円（税抜き））を指定教科書として用います。購入しなければ本講義を履修できないという制限はありません*¹。実物は図書館にありますので、中身を見て決めようという方は、図書館へ行くのが良いでしょう。拙著と講義との対応は別紙に示しました。

*¹ 言うまでもないことですが、指定教科書より優れた量子力学や量子化学の教科書はたくさんあります。「指定教科書」としては「詳解 量子化学の基礎」を挙げますが、好みのものを通読するのが良いでしょう。「詳解 量子化学の基礎」を好意的に評価してくださる方もいる一方、その真逆の評価をされる方もいます。

5 評価に関すること

1. 授業への取り組み点*2, レポート, 試験 (自筆のメモ 1 枚のみ持ち込み可) で評価します。

授業への取り組み点 (10%), レポート (40%), 試験 (50%) の評価を基本とします。

2. 欠席について

やむを得ない理由による欠席 (病欠や忌引き) は所定の規則に従って欠席届けを提出してください。その場合には、欠席扱いはしません。ただし、個別に補習などを行いません。また、レポートなどが出た場合は、友人に聞くなどして対応してください。基本的に、レポートの締切延長措置などは (特別な事情があり、学生から申し出が無い限り) 行いません。

6 レポートに関すること

1. 毎回レポートを課しますので、必ず全問に解答し、次の講義の終了後に提出して下さい。それ以降は遅刻提出とします (大幅に減点します)。
2. 欠席 (やむを得ない理由に限る) により遅れてレポートを提出する場合は、欠席届とともに (ホチキスで綴じて) 提出して下さい。
3. この講義では受講生に「番号」(学籍番号ではありません) を割り振りますので、レポートには「番号」を必ず記入して下さい (未記入の場合は減点することもあります)。

7 連絡に関すること

突然の休講などが生じた場合は、大学の定めた規則どおり、UNIPA などでお知らせしますが、本講義の連絡事項は、基本的に講義中に行います。欠席した場合などは、友人に連絡事項などが無いかなどするようにして下さい。

8 配布プリントに関すること

1. 講義で配布するプリントは、講義開始 5 分前ぐらいに講義室の後ろの方においておきます。自分の分だけ持っていくようにしてください (友達に分まで持っていくしないでください)。
2. 全てのプリントは A4 (30 穴アリ) で配布しますので、A4 の 30 穴ファイルを準備して下さい。
3. 配布プリントは受講者数 + 数部印刷します (から、プリントが不足しても類家のせいではありません)。
4. 欠席等で配布プリントを受け取れなかった場合は、WEB にアップしてあるものを印刷して下さい。
5. ただし、配布プリントのアップに数日かかることがあるかもしれません。

9 質問に関すること

1. 疑問があれば講義中に質問してください。答えられる内容であれば、その場で答えます。無理な場合は、次の講義で回答します。
2. どうしても講義中に質問するのが恥ずかしいと感じる場合、類家の居室 2428 か研究室 2141A まで質問に来てください。オフィスアワーは気にしないで結構です。いつでも構いません。

*2 (文科省のお達しにより)「授業への取り組み点」とまどろっこしい表現をせざるを得ないのですが、これを「平常点」と読み替えていただいて大きな差異はありません。